

国土数値情報（バス停留所）

製品仕様書

第 3.0 版

令和 5 年 3 月

国土交通省不動産・建設経済局

版	更新日	改定内容
第 1.0 版	2010 年 3 月	新規作成 地理情報標準プロファイル (JPGIS) ver. 1.0 準拠
第 1.1 版	2011 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応用スキーマクラス図の「バス路線情報」を追加 ・ 応用スキーマクラス図の「バス停留所」を修正
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 属性に「バス路線情報[1..n]」を追加 ・ 下記 3 箇所の属性を修正 <ul style="list-style-type: none"> ・ バス区分[1..n]→[1..n]の表記削除 ・ 事業者名[1..n]→[1..n]の表記を削除 ・ バス系統[1..n]→[1..n]の表記を削除
		<ul style="list-style-type: none"> ・ バス路線情報[1..n]を追加
		<ul style="list-style-type: none"> ・ XML の符号化仕様を修正
第 2.0 版	2012 年 3 月	地理情報標準プロファイル (JPGIS) のバージョンアップに伴う改訂 (符号化仕様は GML 準拠) <ul style="list-style-type: none"> ・ 属性「バス路線情報」の多重度を 0..n に変更 ・ バス区分コードに「不明:0」を追加
第 3.0 版	2023 年 3 月	一部改訂 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地理情報標準プロファイル (JPGIS) 2014 (令和元年7月) に準拠 ・ 整備対象からデマンドバスと高速バスを除外 ・ 多重度を修正 (バス区分[1..n]、バス系統[1..n]) ・ XML の符号化仕様を修正

目次

1.	概覧	1
1.1	空間データ製品仕様書の作成情報	1
1.2	目的	1
1.3	適用範囲	1
1.4	引用規格	1
1.5	用語と定義	2
1.6	略語	2
1.7	参考資料	2
2.	概覧	2
2.1	適用範囲識別	2
2.2	階層レベル	2
3.	データ製品識別	3
4.	データ内容および構造	3
4.1	応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書	3
4.1.1	国土数値情報応用スキーマパッケージ	3
4.1.2	交通-交通パッケージ	4
4.1.3	バス停留所パッケージ	5
4.2	空間スキーマプロファイル	15
4.3	時間スキーマプロファイル	15
5.	参照系	15
5.1	座標参照系	15
5.2	時間参照系	15
6.	データの品質	16
6.1	品質要求及び評価手順	16
7.	データ製品配布	19
7.1	配布書式情報	19
7.2	配布媒体情報	19
8.	メタデータ	19

1. 概覧

1.1 空間データ製品仕様書の作成情報

本製品仕様書の作成に関する情報は以下のとおりとする。

- 空間データ製品仕様書の題名：国土数値情報（バス停留所）製品仕様書 第 3.0 版
- 日付：2023 年 3 月 10 日
- 作成者：国土交通省 不動産・建設経済局 情報活用推進課
- 言語：日本語
- 分野：交通
- 文書書式：PDF

1.2 目的

本製品仕様書に基づく国土数値情報データは、国土計画や地域計画等の策定支援や、土地・不動産分野での活用を目的とする。また、各分野で広く利用されることも想定している。

本データは、全国のバス停留所の位置（点）、名称、区分（民間路線バス、公営路線バス、コミュニティバス、その他）、事業者名、バス系統について整備したものである。

1.3 適用範囲

本製品仕様書が適用されるデータの適用範囲は以下のとおりである。

- 空間範囲：日本全国
- 時間範囲：本製品仕様書に基づき作成されるデータの作成年度まで

1.4 引用規格

本製品仕様書は以下の規格から引用する。

- 地理情報標準プロファイル（JPGIS）2014（令和元年 7 月）

1.5 用語と定義

本製品仕様書で使用される専門用語とその定義は、以下の資料に従う。

■ 地理情報標準プロファイル(JPGIS) 2014 「附属書 5 (規定) 定義」

■ GIS ホームページ ガイダンス

URL : <https://nlftp.mlit.go.jp/first.html>

1.6 略語

本製品仕様書で使用される略語は、以下のとおりとする。

■ JPGIS Japan Profile for Geographic Information Standards

■ JMP Japan Metadata Profile

■ UML Unified Modeling Language

1.7 参考資料

国土数値情報で使用されるコードリスト等については、以下のサイトを参照。

国土数値情報ダウンロードサービス

URL : <https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>

2. 概覧

本製品仕様書の適用範囲は次のとおりとする。

2.1 適用範囲識別

国土数値情報 (バス停留所) 製品仕様書 第 3.0 版 適用範囲

2.2 階層レベル

データ集合

3. データ製品識別

本製品仕様書に基づくデータ製品の識別は、次のとおりとする。

- 空間データ製品の名称：国土数値情報（バス停留所）データ
- 日付：2023年3月10日
- 問い合わせ先：国土情報提供サイト運営事務局
<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/inquiry.html>
- 地理記述：全国

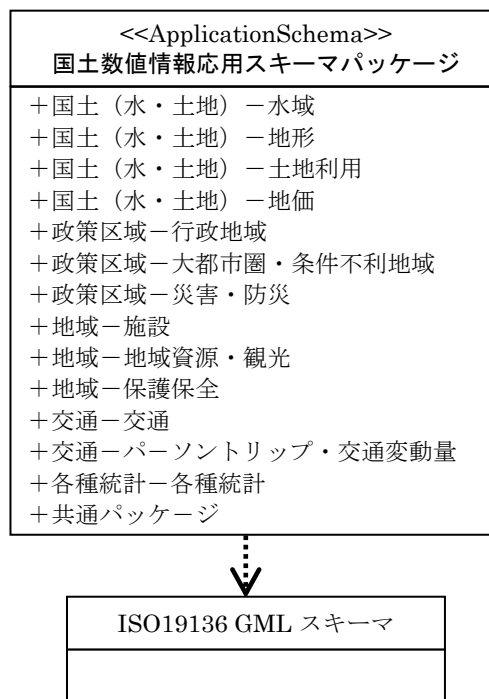
4. データ内容および構造

本章では、本製品仕様書が扱う国土数値情報に関する UML クラス図および定義文書を記す。

4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書

4.1.1 国土数値情報応用スキーマパッケージ

このパッケージは、国土数値情報応用スキーマを構成する各パッケージの依存関係を示したものである。国土数値情報応用スキーマは、国土数値情報データ集合パッケージおよび国土数値情報応用スキーマで共通に使用するコードリスト等をまとめた共通パッケージより構成される。国土数値情報応用スキーマに含まれる地物およびメッシュは、産業統計や沿岸域等のカテゴリにおいて定義される。



(from Standard Schemas)

図 1 国土数値情報応用スキーマパッケージ

4.1.2 交通-交通パッケージ

このパッケージは、交通-交通パッケージをまとめたものである。

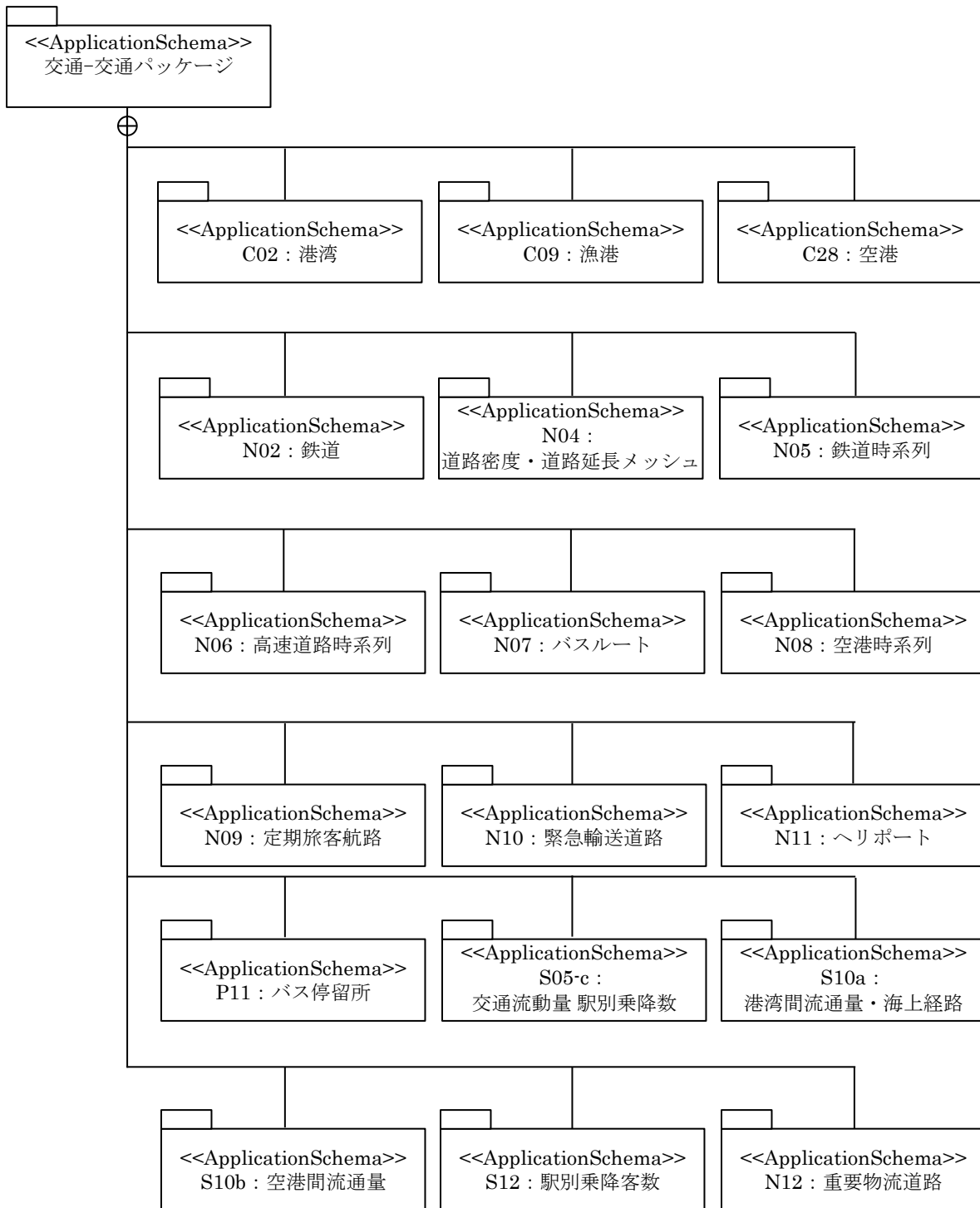


図 2 交通-交通パッケージ

4.1.3 バス停留所パッケージ

このパッケージは、バス停留所に関する内容をまとめたものである。

4.1.3.1. 応用スキーマクラス図

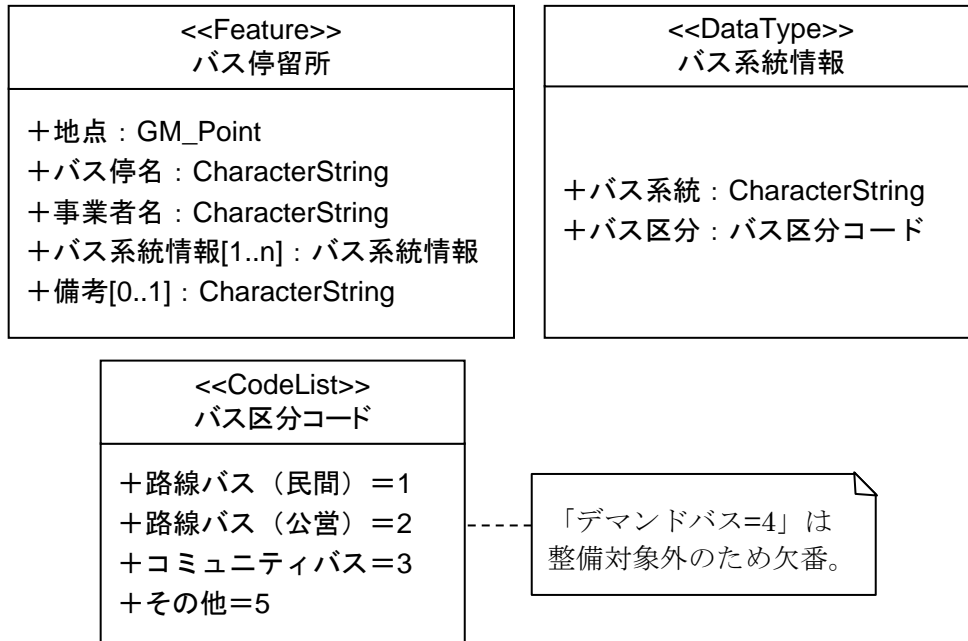


図 3 応用スキーマクラス図

4.1.3.2. 応用スキーマ文書

バス停留所

バス停留所は、バス路線（民間・公営）、コミュニティバス、その他のバス路線について、その停留所を表したものである。整備対象は「路線バス（民間）」「路線バス（公営）」「コミュニティバス」「その他」の4区分（表 1）とする。

表 1 整備対象とするバス区分

バス区分コード	バス区分	説明	一般的な呼称
1	路線バス（民間）	民間事業者が企画・経営・運営を行うもの。民間事業者が民間事業者へ委託する形態も含む	路線バス、巡回バス・周遊バス、深夜バス、スクールバス※、空港シャトルバスなどのように、有料かつ一般乗降可能で定期運行路線が整備されているもの
2	路線バス（公営）	市営バス等、都道府県または市町村の地方公営企業（交通局、交通部など）が企画・経営・運営を行うもの。地方自治体が民間事業者へ委託する形態も含み、公営交通事業者を対象とする	路線バス、巡回バス・周遊バス、深夜バス、スクールバス※
3	コミュニティバス	地方自治体、地域住民等が企画を行い、運行を外部（委託を受けたバス・タクシー事業者）に委託しているもの	コミュニティバス
5	その他	以上に含まれないもの 例) 自治体と民間の共同運行	以上に該当なし

※一般混乗可能なもの

ただし、表 2 のバスは整備対象外とし「その他」のバス区分としても整備しない。

表 2 整備対象外とするバスの種類

整備対象外とするバス	
デマンドバス	貸切バス
高速バス	福祉バス
特定日（イベント開催日）のみの運行	定期観光バス
年間3カ月未満の期間のみの運行 例) 毎年10月から11月のみ運行	シャトルバス（ある地点の利用者サービスとして運行し、一般乗降不可もしくは運賃が無料なもの）
実証実験中のもの	スクールバス※
資料収集時点で運休中のもの	特定条件の利用者の輸送を目的とするもの※

※一般混乗可能なスクールバスは整備対象

運行を他の事業者に委託している場合は、委託元の事業者の種類（民間／地方自治体）でバス区分を判断し、整備する事業者名も委託元とする。

また、自治体が民間に委託している場合のバス区分をコミュニティバスとするが、公営交通事業者が民間事業者に委託している場合にそれらをコミュニティバスと区分するのは不適當であるため、表 3 の事業者は委託の有無にかかわらず「路線バス（公営）」とする。

表 3 路線バス（公営）の対象

都道府県名	公営交通事業者
北海道	札幌市交通局
北海道	函館市企業局交通部
青森県	青森市企業局交通部
青森県	八戸市交通部
宮城県	仙台市交通局
東京都	東京都交通局
神奈川県	川崎市交通局
神奈川県	横浜市交通局
愛知県	名古屋市交通局
京都府	京都市交通局
大阪府	高槻市交通部
兵庫県	伊丹市交通局
兵庫県	神戸市交通局
山口県	宇部市交通局
島根県	松江市交通局
徳島県	徳島市交通局
福岡県	北九州市交通局
福岡県	福岡市交通局
佐賀県	佐賀市交通局
長崎県	長崎県交通局
熊本県	熊本市交通局
鹿児島県	鹿児島市交通局

■主題属性の日本語表記における共通定義域

1. 基本ルール

- 片仮名は全角文字を使用する。
- 英数字は半角文字を使用する。
- 記号類およびスペース「 」は全角文字を使用する。ただし、ハイフン「-」と、スラッシュ「/」は半角とする。
- タブ文字の仕様は不可とする。空白を挿入する際は全角スペース「 」を使用する。

2. Shift_JIS (CP932) で表現できない文字

新字体に変換できる場合は変換した上で直後に「※」、新字体に変換できない場合は読みをカタカナで記述した上で直後に「※」を入力する。読みの判らない記号等は削除する。

- 旧字体・異体字を新字体に変換する場合は、「※」を対象漢字の直後に入力する。
例) 「仁王像 一軀」 → 「仁王像 一軀※」
- 旧字体・異体字で該当する新字体がない場合は、読みをカタカナで記述し「※」を対象漢字の直後に入力する。
例) 「志度寺琰魔堂及び奪衣婆堂」 → 「志度寺エン※魔堂及び奪衣婆堂」
- 読み仮名の判らない記号等は、削除する。
例) 「タロ❀北上おおつつみ」 → 「タロ北上おおつつみ」

3. その他

- 括弧「 () 」は組み合わせて使用する。「括弧開き」または「括弧閉じ」の片方だけの入力不可とする。

地点：GM_Point

バス停留所の位置。バスルート上の地点として示す。配置位置は道路の中心とする。

同一路路に存在する同一名称のバス停留所に対し、1事業者につき1図形データを作成する。1事業者内で複数のバス系統がある場合は、1図形データに複数のバス系統属性を付与する。

また、以降における凡例は、図4のとおりとする。

- : 道路中心
- : 地点 (バス停留所のデータ作成位置)
- : 路線 (バスルートのデータ作成位置)
- ♀ : 原典資料が示す停留所の位置
-→ : 原典資料が示すバスルートの位置
- : 交差点位置

図4 図中の凡例

1. 基本ルール

配置は道路の中心とする。上下線の間や道路中心部に立体、鉄道軌道等の構造物がある場合は、いずれかの道路の中心に作成する。



図5 バス停留所作成方法

2. 上り・下りのバス停留所

①同一路路上にある上下線のバス停留所は一箇所に統合しデータを作成する。

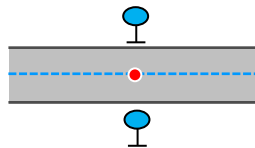


図6 上下線のバス停留所作成方法

②バス停留所の位置が離れているが同じ道路上に存在する場合は、道路中心線と両バス停留所を直線で結んだ線の2本が交差する場所をバス停留所の位置として作成する。この際、上下線のバス停留所間の距離は不問とする。

なお、異なる道路上にある場合は、別のバス停留所として作成する。

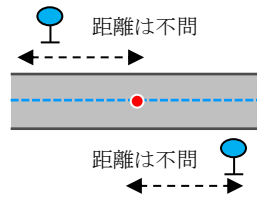


図 7 上下線で位置が離れている場合のバス停留所作成方法

3. 同一道路上にあるバス停留所

100m 以内に存在する同一名称・同一道路上のバス停留所は、同一事業者の場合 1 箇所のバス停留所として作成する。異なる事業者の場合は別のバス停留所として事業者の数だけ作成する。

また、最寄りのバス停留所から上下線のいずれか、もしくは上下線を束ねた位置の距離が 100m を超過している場合は別のバス停留所として作成する。

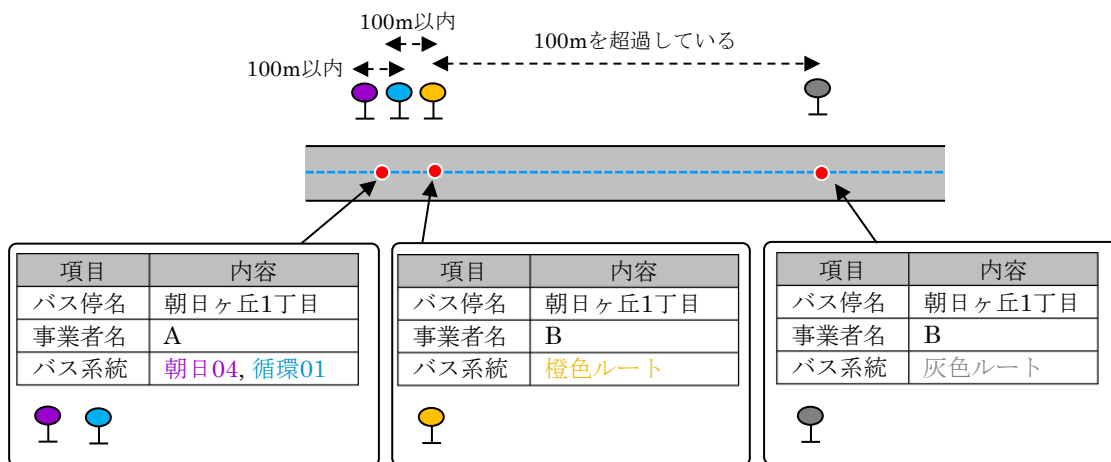


図 8 同一道路上のバス停留所作成方法

4. 同一道路上にない同一名称のバス停留所

路線が異なり別の道路上にバス停留所が存在している場合は、100m 以内であっても別のバス停留所として作成する。ただし、「6.交差点のバス停留所」の場合を除く。

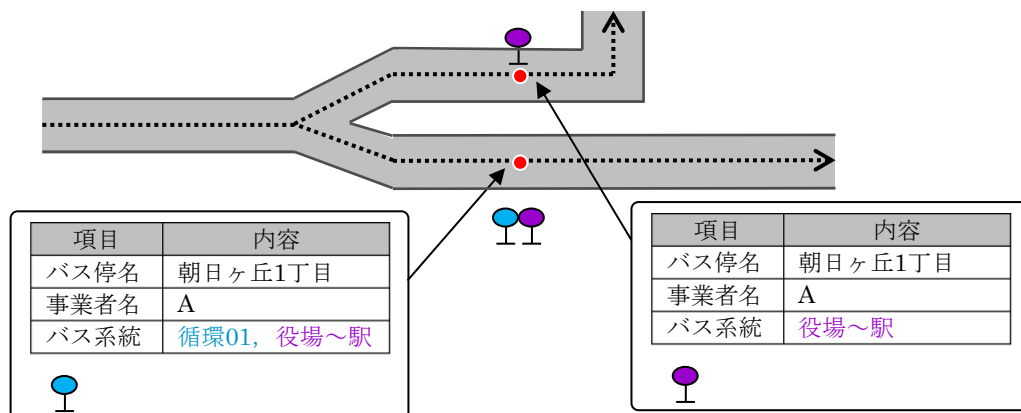


図 9 同一道路上にないバス停留所作成方法

5. 駅前ロータリーなどのバスターミナルのバス停留所

バス停留所が同一事業者かつ同一名称の場合、標柱や乗り場が複数あっても1箇所のバス停留所として作成する。事業者が異なる場合またはバス停留所の名称が異なる場合には、別のバス停留所として作成する。

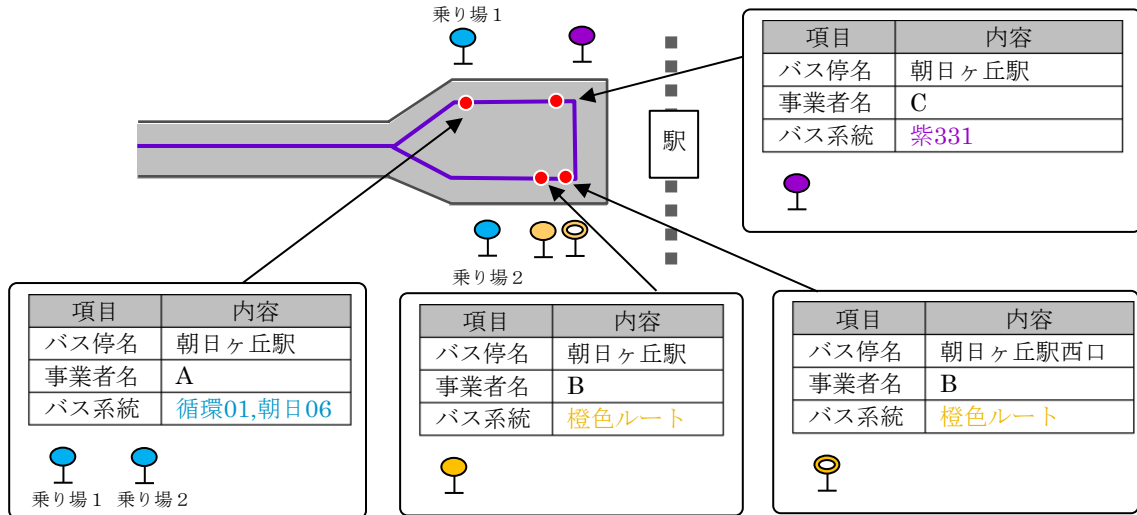


図 10 バスターミナル等での名称の異なるバス停留所作成方法

6. 交差点のバス停留所

同一名称のバス停留所が異なる道路に存在するが、両者が交差点位置から100m以内である場合、交差点の中心にバス停留所を作成する。

また、上下線でバス停留所の位置が離れている場合は、上下線のバス停留所の中心位置と交差点位置を基準とする。

なお、交差点位置は交差点の中心ではなく、バス停留所がある道路が交差部に到達した点とする。

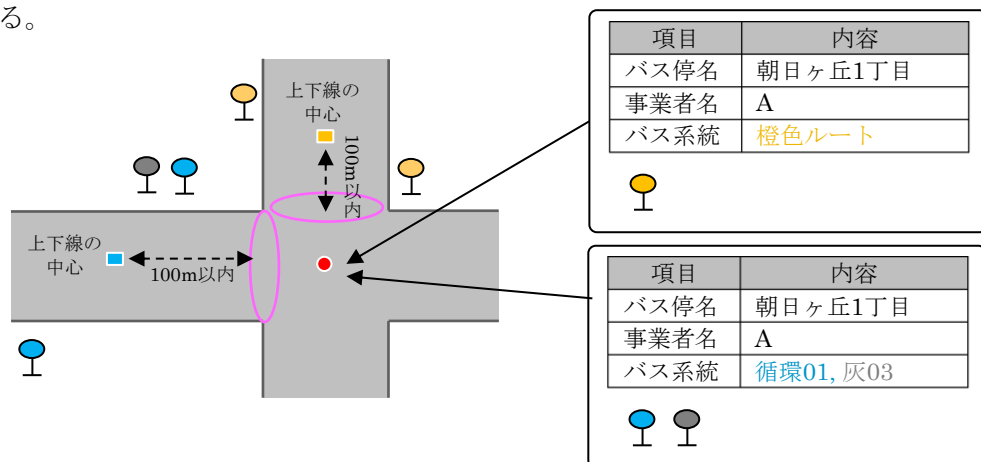


図 11 交差点付近のバス停留所作成方法

7. 原典資料からの作成概要

原典資料にバスルートとバス停留所が記載されている場合は、バスルートおよびバス停留所のデータを作成する。

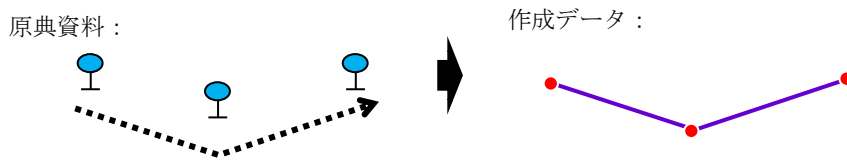


図 12 バスルートとの対応とバス停留所作成方法

原典資料に一部バスルートの記載がない場合は、推定した運行経路上にバス停留所のデータを作成する。

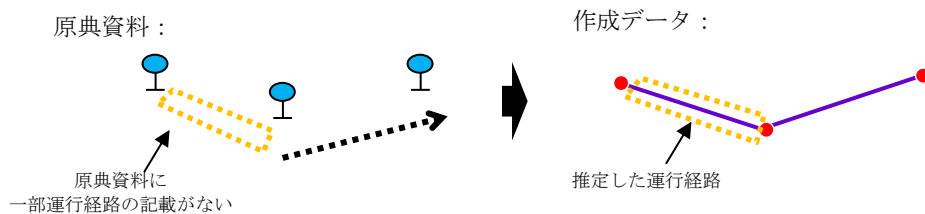


図 13 一部バスルートの記載がない場合のバス停留所作成方法

自由乗り降り区間等がある場合、記載されているバスルートおよびバス停留所のデータを作成する。

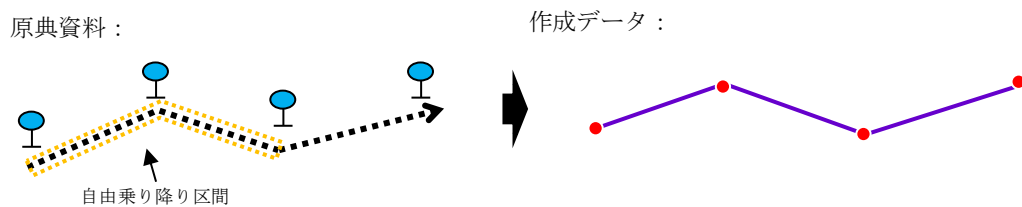


図 14 自由乗り降り区間のバス停留所作成方法

バス停名：CharacterString

原典資料に記されたバス停留所の名称。原典資料に略称と正式名称が記載されていた場合は、正式名称を採用する。なお、丁目等の表記において漢数字・算用数字の違いは可とする。

例) 同一バス停留所に対し「〇〇小」と「〇〇小学校」の2種類の表記がある ⇒ 「〇〇小学校」を正式名称と判断して採用する。

例) 原典資料が「西寺尾四丁目」であるが、入力値が「西寺尾4丁目」であっても可とする。

■定義域

254 バイト以内とする。

事業者名：CharacterString

原典資料に記されたバス停留所を運営する事業者の名称。地方自治体の運行するコミュニティバスの場合は、地方自治体名とする。事業者名の会社形態（「株式会社」等）は表4のとおり省略し、全て全角文字を使用し記述する。

例) 京阪バス株式会社 ⇒ 京阪バス（株）

表4 会社形態の省略記述例

会社形態等	入力 (全て全角を使用する)
株式会社	(株)
有限会社	(有)
合名会社	(名)
合資会社	(資)
合同会社	(同)
医療法人、医療法人社団、医療法人財団	(医)
一般財団法人	(一財)
公益財団法人	(公財)
一般社団法人	(一社)
公益社団法人	(公社)
学校法人	(学)

また、自治体の場合の事業者名は市町村単位とし、政令指定都市の場合は事業者名を「市」、特別区の場合は事業者名を「区」とする。

例) 新潟県新潟市中央区 ⇒ 新潟市

例) 東京都江東区 ⇒ 江東区

◇ 運行委託

運行を他の事業者へ委託している場合、事業者名は委託元の名称で整備する。

自治体が民間事業者や町内会等に補助金を支給し運行しているバスは委託扱いとせず、事業者名は民間事業者や町内会等として整備する。

◇ 共同運行

共同運行を行っている場合、事業者名の区切りは全角の「・」を使用する。

自治体名は行政コード（JISコード）の昇順、民間事業者は事業者名を五十音（あいうえお）順の昇順で記述する。

また、自治体と民間事業者での共同運行の場合は、バス区分を「その他」、事業者名を「自治体→民間の順、区切り文字は・を使用」、備考に「自治体と民間での共同運行」と入力する。

例) 鹿嶋市・潮来市・行方市

例) (株)伊豆東海バス・宇和島自動車(株)

■定義域

254バイト以内とする。

バス系統[1..n] : CharacterString

バスの系統番号または系統名。不明な場合は、バス路線の名称で代用する。

原典資料に略称と正式名称が記載されていた場合、正式名称を採用する。

例) 同一バス停留所に対し「〇〇小」と「〇〇小学校」の2種類の表記がある場合、「〇〇小学校」を正式名称と判断して採用する。

■定義域

254バイト以内とする。

バス区分[1..n] : バス区分コード

バス路線の種類を「バス区分コード」で表現する。

■定義域

「バス区分コード」が取り得る範囲。

表 5 「バス区分コード」の内容

コード	種類	説明
1	路線バス（民間）	バス事業者が運行しているもの
2	路線バス（公営）	市営バス等 自治体の交通局等が運行しているもの
3	コミュニティバス	自治体が運営、または運営委託しているもの
5	その他	以上に含まれないもの

備考[0..1] : CharacterString

自治体と民間事業者の共同運行の場合は「自治体と民間での共同運行」と記述する。

バス停名、事業者名、バス系統、バス区分に関する内容かつ、該当地物に関して特別に記録すべき事項のみを記述する。運行情報のように頻繁に変化する情報は記述しない。

■定義域

254バイト以内とする。

4.2 空間スキーマプロファイル

国土数値情報の空間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル(JPGIS) 2014 空間スキーマ」を採用する。

4.3 時間スキーマプロファイル

国土数値情報の時間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル(JPGIS) 2014 時間スキーマ」を採用する。

5. 参照系

5.1 座標参照系

参照系識別子 : JGD2011 / (B,L)

5.2 時間参照系

参照系識別子 : GC / JST

6. データの品質

6.1 品質要求及び評価手順

データ品質要素・副要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合内に、原典資料が示すバス停留所と対応関係がとれないバス停留所データが存在すれば、それを過剰なデータと数える。また、データ集合内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合、本体を除き、重複している余分なデータの個数をエラーとして数える。 ただし、原典資料に誤りがあり、過剰であることが正の場合を除く。
データ品質評価手法	原典資料との比較による全数検査を実施する。
適合品質水準	過剰データ数：0個

データ品質要素・副要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合内に、原典資料と対応するバス停留所データが存在しない場合、それをデータの漏れと数える。 ただし、原典資料に誤りがあり、漏れであることが正の場合を除く。
データ品質評価手法	原典資料との比較による全数検査を実施する。
適合品質水準	データの漏れの数：0個

データ品質要素・副要素	論理一貫性・書式一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合の書式が、整形形式となっていない箇所（XML 文書の構文として正しくない箇所）を数える。
データ品質評価手法	XML パーサによる全数検査を実施する。
適合品質水準	XML 文書の構文エラーの数：0個

データ品質要素・副要素	論理一貫性・概念一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合と符号化仕様が規定する XML スキーマを比較し、矛盾箇所を数える。
データ品質評価手法	XML バリデータによる全数検査を実施する。
適合品質水準	符号化仕様のXML スキーマに対する矛盾の個数：0個

データ品質要素・副要素	論理一貫性・定義域一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	属性の値が、それぞれ規定された定義域に含まれていない場合、その個数をエラーとして数える。 誤率 (%) = (定義域の範囲外にある値を持つ地物属性の数 / 地物属性の総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率 : 0%

データ品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	属性の値に使用されている文字が、それぞれ規定された定義域に含まれていない場合、その個数をエラーとして数える。 誤率 (%) = (定義域の範囲外にある値を持つ地物属性の値に使用されている文字の数 / 地物属性の値に使用されている文字の総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率 : 0%

データ品質要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	国土数値情報（バスルート）を構成する点と一致しない場合、その個数をエラーとして数える。 ただし、ルートが確定できないバス停留所等、明らかにバスルートに紐づかない場合は除く。 誤率 (%) = (エラーの個数 / 地物の総数) * 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率 : 0%

データ品質要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物と背景図（地理院タイル等の国土地理院発行の地図）を画面上に重ねて、ズームレベル15~17が表示される縮尺で表示し、背景図の道路上にないものをエラーとする。 ただし、更新が不要な系統については、他の道路と混同されない程度の位置ずれはエラーとしない。 誤率 (%) = (エラーの個数 / 地物の総数) * 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率 : 0%

データ品質要素・副要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物と背景図（地理院タイル等の国土地理院発行の地図）を画面上に重ねて表示したものに原典収集を並べて表示し、原典資料と齟齬があるものをエラーとする。 誤率（％）＝（エラーの個数 / 地物の総数）＊ 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

データ品質要素・副要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物を県単位で背景図（地理院タイル等の国土地理院発行の地図）を画面上に重ねて表示し、当該県内に含まれているかを確認する。当該県内に存在しない地物の個数をエラーとして数える。 ただし、経年変化等、背景図の方が誤りと思われる場合を除く。 誤率（％）＝（エラーの個数 / 地物の総数）＊ 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

データ品質要素・副要素	位置正確度・相対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	同一名称の地物間距離が100mよりも離れていることを確認する。100m以内に存在する地物の個数をエラーとして数える。 ただし、同一座標値である場合、同一道路上にない場合を除く。 誤率（％）＝（エラーの個数 / 地物の総数）＊ 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

データ品質要素・副要素	主題正確度・非定量的主題属性の正しさ
データ品質適用範囲	バス停留所
データ品質評価尺度	地物属性のバス停名、バス区分、事業者名、バス系統を原典資料と比較し、原典資料に記載されている内容と一致しない地物の割合を算出する。 誤率（％）＝（内容が一致しない地物属性の数 / 地物属性の総数）＊ 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

7. データ製品配布

7.1 配布書式情報

■ 書式名称

JPGIS 2014 附属書 12（規定）地理マーク付け言語(GML)

■ 符号化仕様

国土数値情報応用スキーマの XML Schema は、JPGIS 2014 (GML) 附属書 12 の符号化規則に従う。また、国土数値情報応用スキーマが参照する基本データ型スキーマ、空間スキーマ、時間スキーマ等の標準スキーマの XML Schema は、次の URL に掲載されている XML Schema を使用する。

<http://schemas.opengis.net/gml/3.2.1/>

国土数値情報（バス停留所）応用スキーマの XML Schema で使用する名前空間および名前空間接頭辞は次のとおりとし、XML Schema については付属資料を参照のこと。

名前空間：<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/xsd/KsjAppSchema.xsd>

名前空間接頭辞：ksj

■ 文字集合

UTF-8

■ 言語

日本語

7.2 配布媒体情報

■ 単位

全国

■ 媒体名

下記サイトよりダウンロード。下記サイトでは、国土数値情報を無償で一般公開している。
国土数値情報ダウンロードサービス

URL：<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>

8. メタデータ

本製品仕様書のメタデータは、JMP2.0 を採用する。

国土数値情報（バス停留所）製品仕様書 第3.0版

付属資料

付属資料－1 符号化仕様作成のためのタグ一覧

カテゴリ	パッケージ	クラス	属性・ 関連役割	型	タグ名	英語名 (属性・関連役割のみ)
交通-交通パッケージ						
P11: バス停留所パッケージ						
バス停留所				BusStop		
		地点	GM_Point	loc	Location	
		バス停名	CharacterString	bsn	Bus Stop Name	
		事業者名	CharacterString	boc	Bus Operation Company	
		バス系統情報 [1..n]		bri	Bus Route Information	
		バス系統	CharacterString	brn	Bus Route Name	
		バス区分	バス区分コード	brt	Bus Route Type	
		備考 [0..1]	CharacterString	rmk	Remarks	

付属资料-2 符号化仕様

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<xsd:schema
  xmlns:ksj="http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/schemas/ksj-app"
  xmlns:gml="http://www.opengis.net/gml/3.2.1"
  xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  targetNamespace="https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/xsd/KsjAppSchema.xsd"
  elementFormDefault="qualified">

<!-- 外部参照 -->
  <xsd:import
    namespace="http://www.opengis.net/gml/3.2.1"
    schemaLocation="http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/ISO_19136_Schemas/gml.xsd"/>

<!-- 基底要素 -->
  <xsd:element name="Dataset">
    <xsd:complexType>
      <xsd:complexContent>
        <xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
          <xsd:choice minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
            <xsd:element ref="gml:AbstractGML"/>
            <xsd:element ref="gml:CompositeValue"/>
          </xsd:choice>
        </xsd:extension>
      </xsd:complexContent>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>

<!-- 要素定義 -->
  <xsd:element
    name="BusStop"
    type="ksj:BusStopType"
    substitutionGroup="gml:AbstractFeature"/>
  <xsd:complexType name="BusStopType">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>バス停留所</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:complexContent>
      <xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
        <xsd:sequence minOccurs="1" maxOccurs="1">
          <xsd:element name="position" type="gml:PointPropertyType">
            <xsd:annotation>
              <xsd:documentation>地点</xsd:documentation>
            </xsd:annotation>
          </xsd:element>
          <xsd:element name="bsn" type="xsd:string">
            <xsd:annotation>
              <xsd:documentation>バス停名</xsd:documentation>
            </xsd:annotation>
          </xsd:element>
          <xsd:element name="boc" type="xsd:string">
            <xsd:annotation>
              <xsd:documentation>事業者名</xsd:documentation>
            </xsd:annotation>
          </xsd:element>
          <xsd:element name="bri" minOccurs="1" maxOccurs="unbounded">
```

```

<xsd:annotation>
  <xsd:documentation>バス系統情報</xsd:documentation>
</xsd:annotation>
<xsd:complexType>
  <xsd:sequence>
    <xsd:element name="brn" type="xsd:string">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>バス系統</xsd:documentation>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="bst" type="ksj:BusTypeCodeType">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>バス区分</xsd:documentation>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
  </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="rmk" type="xsd:string" minOccurs="0">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>備考</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:extension>
</xsd:complexContent>
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="BusStopPropertyType">
  <xsd:sequence minOccurs="0">
    <xsd:element ref="ksj:BusStop"/>
  </xsd:sequence>
  <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup"/>
  <xsd:attributeGroup ref="gml:OwnershipAttributeGroup"/>
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="BusStopMemberType">
  <xsd:complexContent>
    <xsd:extension base="gml:AbstractMemberType">
      <xsd:sequence minOccurs="0">
        <xsd:element ref="ksj:BusStop"/>
      </xsd:sequence>
      <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup"/>
    </xsd:extension>
  </xsd:complexContent>
</xsd:complexType>
</xsd:element>

```

<!-- コードリスト定義 -->

```

<xsd:simpleType name="BusTypeCodeType">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>バス区分コード</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
  <xsd:union memberTypes="ksj:BusTypeCodeEnumType ksj:BusTypeCodeOtherType"/>
</xsd:simpleType>
<xsd:simpleType name="BusTypeCodeEnumType">
  <xsd:restriction base="xsd:string">
    <xsd:enumeration value="1">
      <xsd:annotation>
        <xsd:appinfo>
          <gml:description>民間バス</gml:description>

```

```
    </xsd:appinfo>
  </xsd:annotation>
</xsd:enumeration>
<xsd:enumeration value="2">
  <xsd:annotation>
    <xsd:appinfo>
      <gml:description>公営バス</gml:description>
    </xsd:appinfo>
  </xsd:annotation>
</xsd:enumeration>
<xsd:enumeration value="3">
  <xsd:annotation>
    <xsd:appinfo>
      <gml:description>コミュニティバス</gml:description>
    </xsd:appinfo>
  </xsd:annotation>
</xsd:enumeration>
<xsd:enumeration value="5">
  <xsd:annotation>
    <xsd:appinfo>
      <gml:description>その他</gml:description>
    </xsd:appinfo>
  </xsd:annotation>
</xsd:enumeration>
</xsd:restriction>
</xsd:simpleType>

</xsd:schema>
```